(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3677692号
(P3677692)
(45)発行日　平成17年8月3日(2005.8.3)　(24)登録日　平成17年5月20日(2005.5.20)

(51)Int.Cl.[7]	F I		
B65D 27/00	B65D	27/00	L
B42D 15/08	B42D	15/08	B

請求項の数 1　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願平9-19430
(22)出願日　平成9年1月31日(1997.1.31)
(65)公開番号　特開平10-218194
(43)公開日　平成10年8月18日(1998.8.18)
審査請求日　平成14年3月20日(2002.3.20)

(73)特許権者　000110217
トッパン・フォームズ株式会社
東京都港区東新橋一丁目７番３号
(74)代理人　100062225
弁理士　秋元　輝雄
(72)発明者　西川　吉裕
千葉県市川市田尻４－１－３３

審査官　渡邊　真

(56)参考文献　実開平０７－０３７６７０（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５４－１５３５２２（ＪＰ，Ｕ）
実開平０６－０８１９４３（ＪＰ，Ｕ）
特開平０９－００１９６２（ＪＰ，Ａ）

最終頁に続く

(54)【発明の名称】返信封筒付き封書フォーム

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
往信用の宛名表示窓を有する往信封筒表紙と往信封筒裏紙と中折り紙と返信封筒表紙とを折り部を介して連接してなる第一シートと、前記往信封筒裏紙から中折り紙にかけて重なる申込用紙と前記返信封筒表紙に重なる返信封筒裏紙とを折り部を介して連接してなる第二シートとからなり、
前記返信封筒表紙と返信封筒裏紙の相対する三周辺を封着した返信封筒を備え、
前記返信封筒裏紙には、重ね合わせた両シートを前記往信封筒裏紙と中折り紙との間で二つ折りしてから前記往信封筒表紙と往信封筒裏紙との間で二つ折りしたときの前記宛名表示窓に対応する位置に、往信封筒受取人住所氏名などの受取人情報と返信封筒差出人住所氏名などの差出人情報とを兼ねる宛名情報を記載する宛名記載部が設けられていることを特徴とする返信封筒付き封書フォーム。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は返信封筒を備えて折り畳むことにより往信封筒として構成できる封書フォームに関するものである。
【０００２】
【発明が解決しようとする課題】
従来から金融機関などにおいては、新規サービスの案内を顧客へ通知するような場合、そ

の新規サービスを紹介する案内状と申込用紙と返信封筒とを一つの封筒にまとめ、これを顧客側へ送付している。そして、これら案内状や申込用紙、返信封筒とを組み合わせて送付する際の差出人側での手間を考慮して、返信封筒を予め備える封書フォームによって封書を作成しこれを送付することも行われるようになってきた。

図６はその一例を示していて、返信封筒付き封書フォーム１は第一シート２と第二シート３とを重ね合わせ、両シートの同一側の所要の辺部を封着して返信封筒４が設けられているものであり、この返信封筒付き封書フォーム１にあっては図７に示されているように重ね合わせ状態とされた両シートを二つ折りし、さらに同一方向に二つ折りすることで封筒（往信封筒）としての形態が得られるようにしており、同様の折り工程を二回経るという簡易な製造ラインに対応している封書フォームである。第一シート２は往信封筒表紙５と往信封筒裏紙６と中折り紙７と返信封筒表紙８とが折り部９を介して連接しており、第二シート３は前記往信封筒裏紙６から中折り紙７にかけて重なる申込用紙１０と前記返信封筒表紙８に重なる返信封筒裏紙１１とを折り部１２を介して連接している。そして、前述したように返信封筒表紙８と返信封筒裏紙１１との相対向する連続三周辺を封着することで一辺開放の前記返信封筒４を形成しており、往信封筒裏紙６から中折り紙７にかけて重ねられる申込用紙１０にあっては相対向する上辺同士、下辺同士が封着され、その封着部に沿う切り取り部１３から申込用紙１０が分離できるようにしている。勿論、この申込用紙１０は前記返信封筒裏紙１１からもその間の折り部１２で分離できるように設けられているものであり、返信封筒表紙８に連接されている封緘部１４を中折り紙７から分離して返信封筒４を独立させ、これに所要事項を記載した前記申込用紙１０を入れることができるようにしている。

【０００３】

上述したように、この返信封筒付き封書フォーム１は同一方向に二回二つ折りして封筒が形成できるようにしたものであり、上記往信封筒裏紙６と中折り紙７との間で第二シート３が内方となるように二つ折りし、この二つ折りの状態からさらに往信封筒表紙５と往信封筒裏紙６との間で二つ折りし、前記往信封筒表紙５の側辺に連接されている封緘部１５を往信封筒裏紙６に折り重ねるようにしている。そして、このように折り方向を同様とした二回の二つ折りに際して、相対する上辺同士、また、下辺同士が接着剤ｓを介して封着される。前記封緘部１５には二条の切り取りミシンを入れてなる開封手段１６が設けられており、この封緘部１５の側端側を前記接着剤ｓを介して往信封筒裏紙６に接着できるようにしている。

なお、図８に示されているように、作成された往信封筒２０を開封するには前記封緘部１５の開封手段１６で切るとともに、往信封筒表紙５から返信封筒表紙８にわたる上下の封着部分を切り取り部１３から分離することで全体を開くことができるようになる。

しかしながら、上記構造の返信封筒付き封書フォーム１においてはこの返信封筒付き封書フォーム１から作成した往信封筒２０の送り先となる受取人住所氏名などの宛名情報を往信封筒表紙５に記載するとともに、返信封筒４の差出人としての宛名情報（先の受取人住所氏名などの宛名情報と同じ情報）を返信封筒裏紙１１に記載する必要がある（図９参照）。この返信封筒裏紙１１にも宛名情報を予め記載しておくことで顧客側の手間を解消することができるが、返信封筒付き封書フォーム１への宛名情報の記載に際して同一情報を第一シート２と第二シート３とに二度記載しなければならず、両面プリンタなどを用いて機械印字しても返信封筒付き封書フォーム１の上下を反転させる段階が印字工程中にあって印字効率が悪いという問題があった。また、第一シート２と第二シート３とを組み合わせる前に、前記往信封筒表紙５（第一シート）と返信封筒裏紙１１（第二シート）とに宛名情報を機械印字させるようにすることが考えられるが、両シートを組み合わせるときに組み合わせ間違い（マッチングミス）を生じる可能性があり、組み合わせ後の返信封筒付き封書フォーム１ごとに行う確認作業が非常に煩雑になるという問題がある。

そこで本発明は上記事情に鑑み、一箇所への宛名情報の記載で往信封筒を送付する際の受取人の表記が行えるとともに、返信封筒を送付する際の差出人の表記が行えるようにすることを課題とし、返信封筒を所持した封筒を送付する際の手間を軽減することを目的とす

る。

【０００４】

【課題を解決するための手段】

本発明は上記課題を考慮してなされたもので、往信用の宛名表示窓を有する往信封筒表紙と往信封筒裏紙と中折り紙と返信封筒表紙とを折り部を介して連接してなる第一シートと、前記往信封筒裏紙から中折り紙にかけて重なる申込用紙と前記返信封筒表紙に重なる返信封筒裏紙とを折り部を介して連接してなる第二シートとからなり、前記返信封筒表紙と返信封筒裏紙の相対する三周辺を封着した返信封筒を備え、前記返信封筒裏紙には、重ね合わせた両シートを前記往信封筒裏紙と中折り紙との間で二つ折りしてから前記往信封筒表紙と往信封筒裏紙との間で二つ折りしたときの前記宛名表示窓に対応する位置に、往信封筒受取人住所氏名などの受取人情報と返信封筒差出人住所氏名などの差出人情報とを兼ねる宛名情報を記載する宛名記載部が設けられていることを特徴とする返信封筒付き封書フォームを提供して、上記課題を解消するものである。

【０００５】

【発明の実施の形態】

つぎに本発明を図１から図５に示す実施の形態に基づいて詳細に説明する。なお、図６から図９に示す従来例と構成が重複する部分は同符号を付してその説明を省略する。

図示された実施の例において、第一シート２が往信封筒表紙５と往信封筒裏紙６と中折り紙７と返信封筒表紙８とからなり、また、第二シート３が申込用紙１０と返信封筒裏紙１１とからなり、この両シート２、３が重ね合わされて上下の辺を封着部分とするとともに、前記返信封筒表紙８と返信封筒裏紙１１との三周辺を封着して返信封筒４を構成している点は従来の例と同じであり、同一方向へ二回二つ折りすることで封筒形態となるようにする点も同じである（図１、図２参照）。

そして、本発明にあっては、図３にも示されているように上記第一シート２の往信封筒表紙５に透明フィルム１７で窓貼りされた宛名表示窓１８が設けられている。さらに、返信封筒裏紙１１において、この返信封筒付き封書フォーム１を前記の二回の二つ折りしたときに前記宛名表示窓１８に対応する位置に宛名記載部１９が設けられている。これによって、前記宛名記載部１９に宛名情報を出力した後に前述の折り重ねを行うと、図４に示すように、前記宛名表示窓１８から宛名記載部１９が表出する往信封筒２０が得られ、その宛名表示窓１８から往信封筒受取人住所氏名などの受取人情報を見ることができる。さらに、図５に示すように受取人側で返信封筒４を分離した場合には、前記宛名記載部１９における宛名情報が返信封筒４の返信封筒差出人住所氏名などの差出人情報として表記されるものとなり、一箇所の宛名情報が往信時と返信時とで兼用できるようになる。なお、返信封筒４の送り先はいずれの返信封筒付き封書フォーム１に対して同一とすることができ、返信封筒表紙８にはこの返信封筒４を受けるための宛名情報が予め印刷などにより設けられている。

【０００６】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の返信封筒付き封書フォームは、往信用の宛名表示窓を有する往信封筒表紙と往信封筒裏紙と中折り紙と返信封筒表紙とを折り部を介して連接してなる第一シートと、前記往信封筒裏紙から中折り紙にかけて重なる申込用紙と前記返信封筒表紙に重なる返信封筒裏紙とを折り部を介して連接してなる第二シートとからなり、前記返信封筒表紙と返信封筒裏紙の相対する三周辺を封着した返信封筒を備え、前記返信封筒裏紙には、重ね合わせた両シートを前記往信封筒裏紙と中折り紙との間で二つ折りしてから前記往信封筒表紙と往信封筒裏紙との間で二つ折りしたときの前記宛名表示窓に対応する位置に、往信封筒受取人住所氏名などの受取人情報と返信封筒差出人住所氏名などの差出人情報とを兼ねる宛名情報を記載する宛名記載部が設けられていることを特徴とするものである。これによって、一箇所の宛名記載部に宛名情報を記載するだけでその宛名情報が往信時の受取人表記と返信時の差出人表記として兼用できるようになる。そして、返信封筒付き封書フォームに対して一回の宛名情報の記載でよいことから、通常のプリンタを

用いても情報印字の効率が頗る向上するようになり、強いては往信封筒の作成効率が向上するようになる。そして、マッチングミスも生じることがないため、確認作業の手間を低減させることができるなど、実用性に優れた効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明に係る返信封筒付き封書フォームの実施の例を分離状態で示す説明図である。

【図２】折り重ねの状態を示す説明図である。

【図３】本発明の実施の一例を示すもので、（イ）は第一シート側から見た状態を示す説明図、（ロ）は第二シート側から見た状態を示す説明図である。

【図４】往信封筒の形態を示す説明図である。

【図５】返信封筒の返信封筒裏紙側を示す説明図である。

【図６】従来の例を示す説明図である。

【図７】従来の例における折り重ねの状態を示す説明図である。

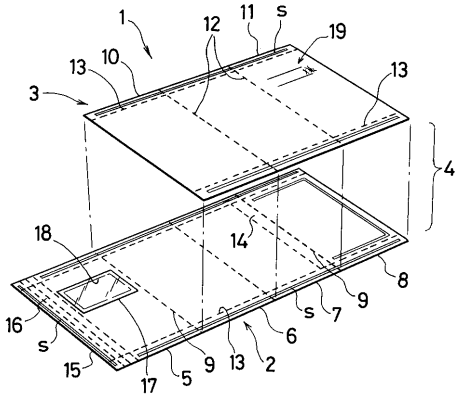
【図８】従来の例における開封状態を示す説明図である。

【図９】従来の例を示すもので、（イ）は第一シート側から見た状態を示す説明図、（ロ）は第二シート側から見た状態を示す説明図である。

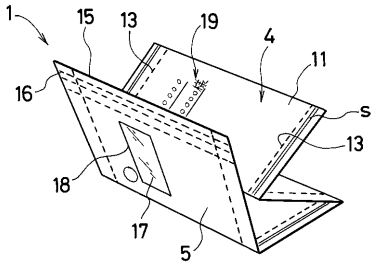
【符号の説明】

１…返信封筒付き封書フォーム
２…第一シート
３…第二シート
４…返信封筒
５…往信封筒表紙
６…往信封筒裏紙
７…中折り紙
８…返信封筒表紙
９，１２…折り部
１０…申込用紙
１１…返信封筒裏紙
１８…宛名表示窓
１９…宛名記載部
２０…往信封筒

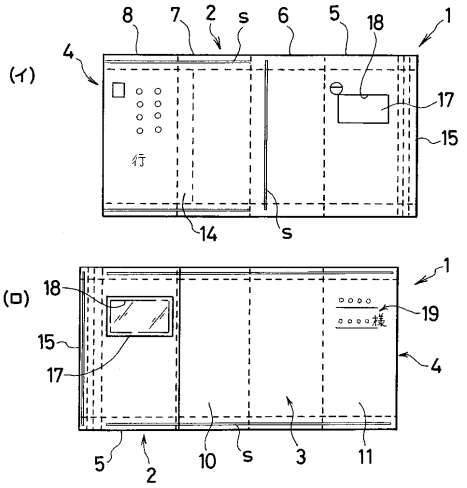
【図１】



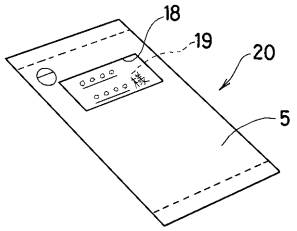
【図２】



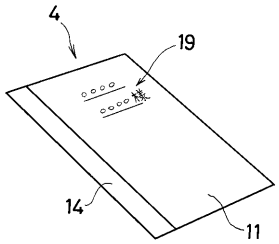
【図３】



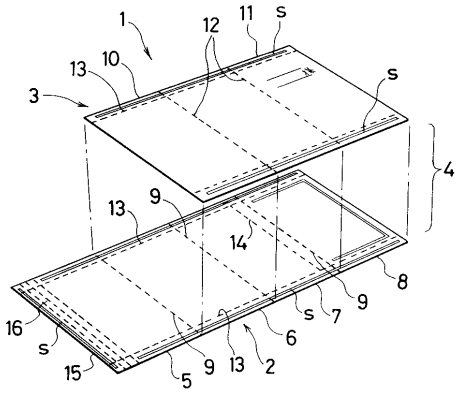
【図４】



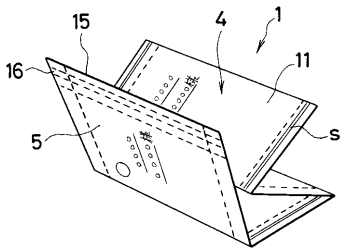
【図５】



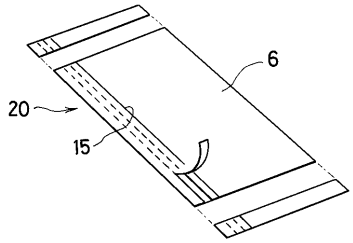
【図６】



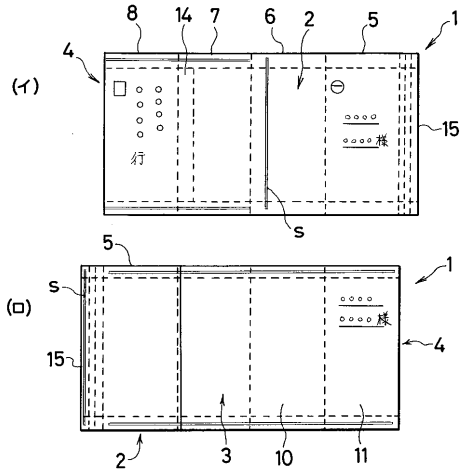
【図７】



【図８】



【図９】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.[7], ＤＢ名)
B65D 27/00
B42D 15/00